

■□■受験対策ミニ講座 11号 2018■□■

明日から 12 月。国家試験まであと 2 ヶ月しかない？いえいえ、まだあと 2 ヶ月も！あります。1 日にひとつのことを学ぶとしても、かなりの知識が蓄積できます。時間を有効に使って、1 日 1 日を大切に、休むことなく進んでいきましょう。

【問題 11 28 回 34】

セツルメントに関して、正しいものを 1 つ選べ。

- 1 日本のセツルメント運動は、アダムスが岡山博愛会を設立したことに始まるとされている。
- 2 中央慈善協会は、全国の主要な都市で展開されていたセツルメント運動の連絡・調整を図ることを目的として設立された。
- 3 留岡幸助は、大崎無産者診療所を開設しセツルメント運動に取り組んだ。
- 4 大原孫三郎は、セツルメントの拠点としてキングズレー・ホールを開設した。
- 5 賀川豊彦は、神戸の貧困地域でのセツルメントの実践を『貧乏物語』にまとめた。

正解と解説は最後に記載しています。

■Plus Column

【ある人生を俯瞰する】

「人物と業績」は、地域福祉の理論と方法、現代社会と福祉、相談援助の基盤と専門職、児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度などの科目で出題されます。頻出傾向は明治 20 年代頃に新しい事業を立ち上げた人たちですが、最近はその以外の人も出題されています。だからといって"ひたすら暗記"ではなく、どんな人物がなぜ、その事業に取り組んだのか、時代背景からしっかり学ぶと視野が広がり、応用問題にも対応できる実力が必ず UP します。

例えば今回の過去問.選択肢 2 の「中央慈善協会」の初代会長は、実業家の渋沢栄一（1840～1931）です。中央慈善協会は慈善救済団体の集合体（明治 41 年設立）で、戦後の全国社会福祉協議会の母体となった事も頻出事項の一つです。

「日本資本主義の父」といわれる渋沢栄一は五百以上の企業の創設に関わった人物で、日本銀行や帝国ホテルにも銅像があります。「晩年は社会事業に貢献した」と紹介されることが多いようですが、総合的な医療・福祉施設「養育院」には、事務長や院長として 36 才から 91 才で亡くなるまで関わり続け、養育院の庭に銅像が建てられた際には、自身の手で除幕したそうです。

養育院の設立は、明治 5 年ロシアの皇子の来日を控えて「帝都の美観」を整えるために「乞食・行路病人・捨子」などが集められたことがきっかけでした。養育院への公的な援助が打ち切られた時、渋沢は「こうした施設は先進国には必ずあり、公が責任を持つべきである」と公営化を求める建議書を提出し、資金集めに奔走しました。その後、養育院は東京市の運営となり、そこから様々に分化して、後に東京都が運営する多くの病院や福祉施設の母体となっていきます。

中央慈善協会の活動などを通じて多くの社会事業家と交流し、「石井（亮一）さんには教育に専念させてあげたい」と、日本初の知的障害児施設滝乃川学園の理事長職を自ら引き受けたというエピソードもあります。

こうした活動は今、企業の社会貢献モデルのひとつとして、経営学の立場からも再評価されています。

「人物と業績」を知ることは、その時代と社会を理解することです。先人の思想に学び、そのパワーをもらうことが「人物と業績」を学ぶ本当の意味だろうと思います。

参考文献 『渋沢栄一』岩波新書、『公益の追及者・渋沢栄一：新時代の創造』 山川出版社

■Back Number

過去のバックナンバーはこちら→http://www.aigo.or.jp/yoseijo/?page_id=2686

【問題 11 28 回 34 正解と解説】

- 1 ○
- 2 ×正しくは、中央慈善協会はセツルメント運動ではなく慈善救済団体の連絡・調整を図る目的で設立されました。
- 3 ×正しくは、留岡幸助は感化事業の先駆者で家庭学校を設立した人物。
- 4 ×正しくは、大原孫三郎は実業家で社会事業として病院や美術館を設立した人物。
- 5 ×正しくは、賀川豊彦の著書は『死線を越えて』。

※掲載内容の転載・再配布はご遠慮ください。

※メール内容に対する個別の対応は行っておりません。

※問い合わせ等については社会福祉士養成所ホームページより行えます。

〒105-0013 東京都港区浜松町 2-7-19KDX 浜松町ビル 6F

Copyright2016 YoseijoNewsplus